

### (3) 北 関 東



北関東地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

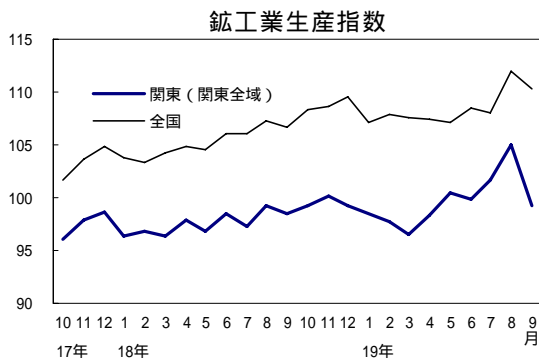
#### 前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 19 年 8 月)	今回 (平成 19 年 11 月)	
鉱工業生産	おおむね横ばい	緩やかに増加	
個人消費	緩やかに回復	おおむね横ばい	
住宅建設	減少	大幅に減少	

#### 1. 生産及び企業動向

##### (1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。(関東全域)

一般機械は、プレス用金型が不調であったものの、装輪式トラクターや印刷機械が好調であったため、増加している。化学は、ボディソープなどの身体洗浄剤に動きがみられたものの、フェノールなどの樹脂原料が振るわなかったため、おおむね横ばいとなっている。輸送機械は、北米、欧州を中心とした普通乗用車の需要が引き続き堅調であったため、増加している。情報通信機械は、外部記憶装置は振るわなかったものの、携帯電話の新規モデル受注が好調であったため、5四半期連続で増加している。電気機械は、猛暑の影響でセパレートエアコンが好調であったことから、増加している。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。  
2. 平成19年9月の関東は速報値。

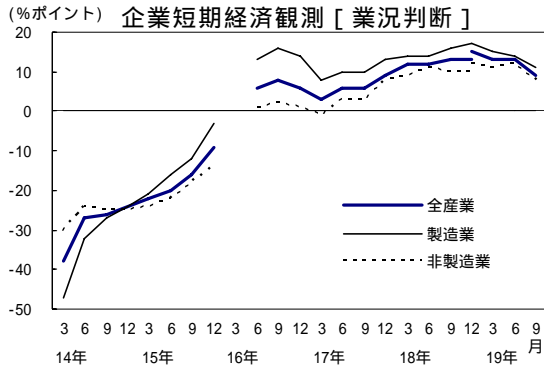
##### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
一般機械	13.8	2.5	2.2	2.5	1.6
化学	13.7	5.7	0.0	1.0	1.7
輸送機械	11.3	1.2	6.4	4.8	5.3
情報通信機械	8.6	4.2	3.8	4.9	7.3
電気機械	7.9	1.0	4.3	2.4	1.0
鉱工業	100.0	1.9	2.5	1.7	0.2

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
2. 7~9月期は速報値。  
3. 7~9月期の化学の生産、出荷は、7月、8月確報値の平均より算出。在庫は、8月確報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

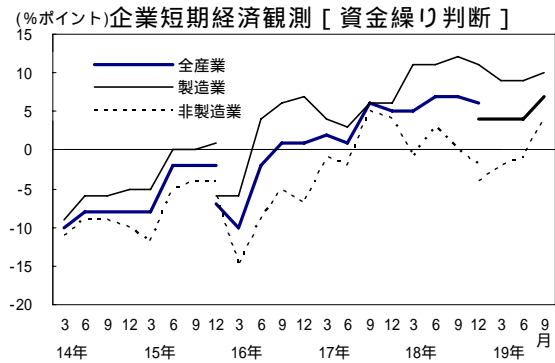
#### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。

旧基準は15年12月まで。新基準は16年6月から。

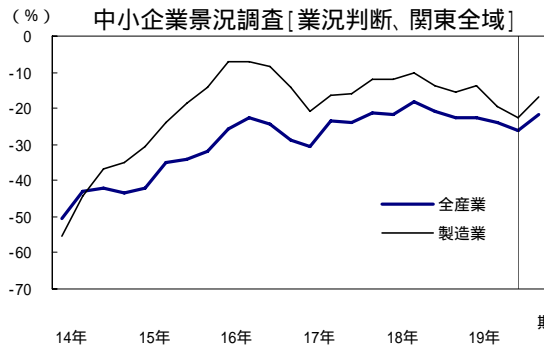
18年12月は新・旧基準を併記。関東全域(新潟県を含む)。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。

15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。

15年12月までは関東全域、以降は日本銀行前橋支店管内。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。19年 期は見通し。

#### 景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「建設機械、油圧機器の分野が増産傾向で、引き続き好調に推移している。客先からは「米国の住宅ローンの問題で北米の減速感があるお陰でどうにか生産が間に合っている」と聞いている(一般機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 19年度の設備投資は前年度を下回る計画となっている。

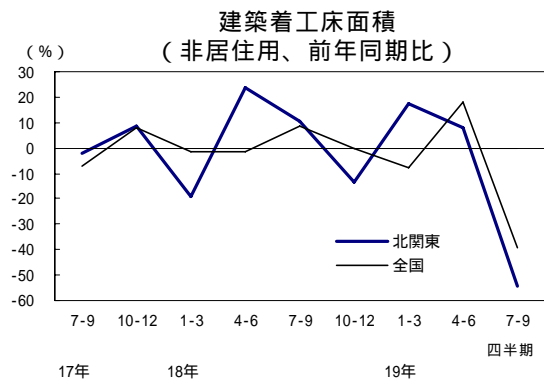
#### 企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

(前年度比、%)

	18年度実績	19年度計画
全産業	1.3	4.6 [ 3.2 ]
製造業	31.9	0.8 [ 2.2 ]
非製造業	27.6	12.5 [ 11.0 ]

(備考)[ ]は前回(6月)調査結果。

調査対象は日本銀行前橋支店管内。



(3) 北関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

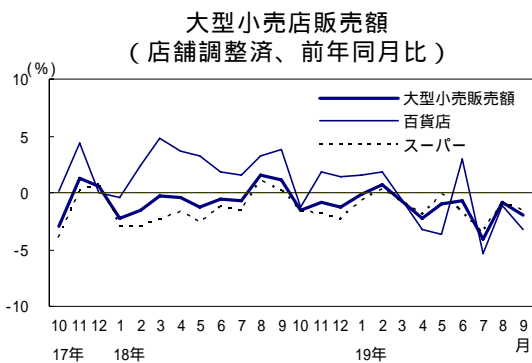
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は、夏物クリアランスセール前倒しの反動に加え、天候不順により衣料品が振るわなかったことから、前年を下回った。8月は、下旬以降の猛暑の影響で、ビールなどの飲食料品、日傘などの身の回り品が好調だったものの、梅雨明けの遅れにより夏物衣料が低調であったことから、前年を下回った。9月は、残暑が続いた影響で、婦人服を中心に秋物衣料が振るわなかったことから、3か月連続で前年を下回った。

スーパーは、清涼飲料水やアイスクリームなどの飲食料品が好調だったものの、主力の衣料品が期を通して低調に推移したため、全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

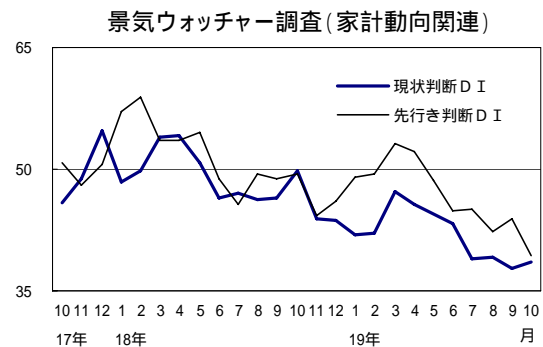
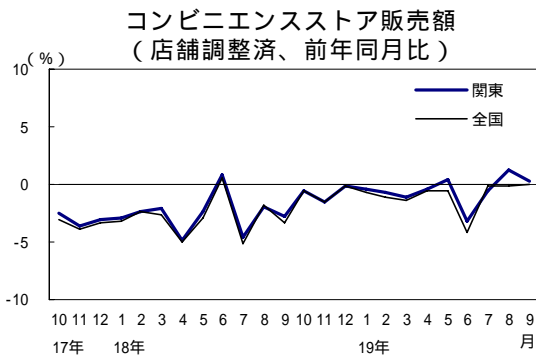
「食料品や身の回り品は前年並みの売上を確保できているが、宝飾、絵画等の高額品が苦戦しており、比較的裕福な層の消費に陰りが見られる(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	18年10-12月	19年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	1.2	0.1	1.3	2.4
百貨店	0.7	0.9	1.4	3.5
スーパー	2.0	0.4	1.3	2.0
コンビニ	0.7	0.7	1.1	0.3
景気ウォッチャー	45.7	43.8	44.5	38.6

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。19年7-9月期は速報値。コンビニは関東全域。

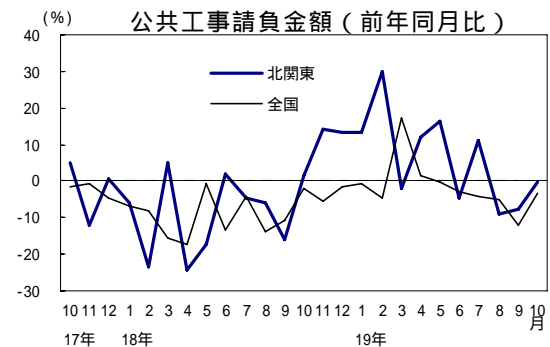
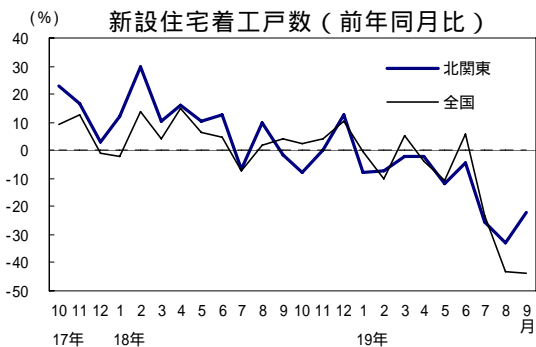
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家が前年を大幅に下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は19年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

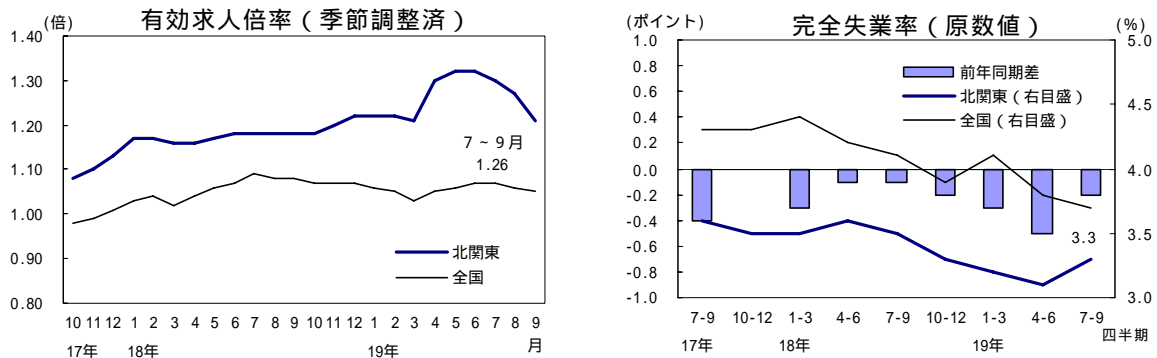


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月) [雇用関連 (現状)]

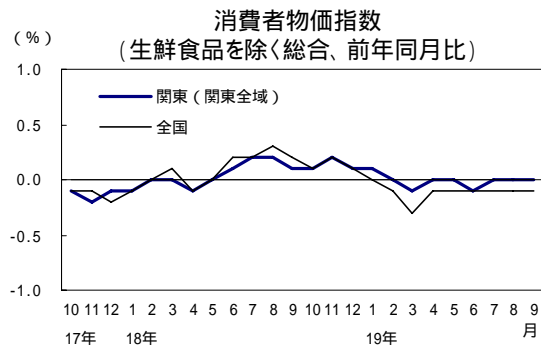
「求人広告誌に掲載する企業は多くあるものの、多くがサービス業で、中でも飲食店、遊技場が多い。また、常に同じ企業、店舗の募集が多い (求人情報誌製作会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	18年10-12月	19年1-3月	4-6月	7-9月	19年10月
倒産件数	191	209	223	192	63
(前年比)	20.9	13.6	45.8	22.3	11.3
負債総額	1,406	1,119	1,087	875	150
(前年比)	40.6	18.3	9.9	6.9	80.9



景気ウォッチャー調査 (10月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

- 客の様子は3か月前とあまり変わらず、20~30代の旅行人口が減っている。旅行に行こうとしない若い人が多く、旅行に使うよりどこか違うところにお金を使っているようである (旅行代理店)。

<先行き>

- ガソリン代など燃料費の急騰により、遠距離からの来場者は乗り合わせが多くなる。この状況が続くと近くのゴルフ場に場所を変更するため、来場者が減少する (ゴルフ場)。

景気ウォッチャー調査 (合計)

